

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 3 月 7 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103676		
法人名	有限会社 美 泉		
事業所名	グループホームよってきんさい本浦		
所在地	広島市南区本浦町27-18 (電話) 082-508-2626		
自己評価作成日	平成26年2月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103676-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年3月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>地域の中の「一軒の家庭」として、職員、利用者様と共に家族という思いを持ち生活している。職員は常にやさしい気持ちを持ち、笑顔で接する事を今年のホーム全体の目標に立て全員で取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>民家改築型の木造2階建て（定員9名）建物である。黄金山の中腹に開発された団地なので、リビングからは、広島市内が一望され、とても開放的である。住環境は、木の温もりを感じる設計で、馴染みのある家庭的で過ごしやすい生活空間である。代表者が看護師であり、入居後、重度化して医療ニーズが必要となっても、本人のかかりつけ医との連携を密に行うなかで、適切な支援（医療）が受けられる体制づくりができています。入居者主体を基本と捉え、生活上必要な全ての事柄は職員と利用者がともに行い、共に楽しむようにしている。本人の居場所で「その人らしさ」の生活が継続できるように、利用者本位、本人の思いを汲み取り、利用者を中心としたケアを提供している。年を重ねても、社会や人との関わりが持てるように、旅行や外出などを行い、生き甲斐づくりや本人の役割づくりをしている。管理者は、職員の力量が必要不可欠であり、勤続年数が長い方、馴染みのある職員が関わることが最善と考え、今後も更に職場環境の充実づくりを行い、既存職員の定着、人材育成に力を入れていきたいと考えている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>開設より理念を作っている。その一つに、地域に密着したホームを目指す掲げ、日々取り組んでいる。</p>	<p>毎年度、地域状況や利用者の状況、各職員の意見を取り入れ、目標を設定している。その年度目標を設定することにより、理念に関しての意識が維持・向上できるようにしている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>町内会へ加入している。町内の行事（夏祭り等）や地域サロンに参加し、地域の方々と交流している。</p>	<p>町内会へ加入をされている。月に1回の地域サロンへの参加や地域行事（夏祭りなど）に参加され、地域と利用者の交流が図られている。町内掃除や利用者参加による溝掃除などを行い、地域との関わりを密にしている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>運営推進会議時に話をしたり、町内より相談があった時は、相談にのっている。</p>	/	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回利用者様の状況や行事の報告をしている。意見交換を行い町内の協力を得て、サービス向上を目指している。</p>	<p>参加者との建設的な意見交換、情報交換が行われている。今までも、家族への参加依頼をお願いしていたが、開催時間などのこともあり、出席ができていない状況であった。それを受け、ホームとして、働きかけることにより、次回開催日から家族参加の実現ができた。</p>	
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>集団実施指導の研修機会や事業所のケアサービス等について協力を得ている。</p>	<p>直接入居相談などもある。入居者の状況により、市担当者とは随時連携を図っている。地域包括支援センターの職員は、運営推進会議に参加され、必要時は相談したり密に連絡を取り合い、協力関係を築くようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>行政発行の拘束禁止の具体的な行為等を参考にし理解を深め、身体拘束をしない、させないケアに取り組んでいる。</p>	<p>家族の了解を得て、住居が2階建てのこともあり、転落防止のため、2階の階段部分には、夜間のみゲートの設置や安全確認のため、足元専用のセンサーマットを設置している。同グループ内の研修などを適宜行い、職員は正しく理解し、身体拘束を行わないケアが当たり前という認識となっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>日々のケアの中でお互いに注意を払い防止に努めている。虐待はありません。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>社内外の研修会で学んでいる。必要と思われる場合は、制度が利用出来るように上司に報告、相談し支援につなげている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に、重要事項や利用についての説明を行い、心配や不安に思う事をお尋ねし、理解して頂けるよう努めている。契約締結後であっても、疑問点等あればいつでも受けつけている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>窓口は明確にしている。運営推進会議等で公表し、改善すべき事は改善し日々取り組んでいる。</p>	<p>入居時や介護計画の見直し時に、本人および家族の意向を把握したり、面会時などに、家族の生の声を聴くように努力されている。毎月、担当職員からホームでの近況報告を送付している。「食事に関するアンケート」を年2回実施するなか、それらの意見や要望などについては、情報共有して対応されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>年1回、申告書があり自由に意見等が記入できるようになっている。</p>	<p>年1回、申告書（自己評価、上司への要望、提案など）があり、自由に意見や要望などできるシステムを取り、職員の働きやすい職場づくりの充実を図る取り組みをしている。代表者や管理者は、それらの要望を検討・改善するように努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>リーダーや委員会の責任者等、個々に合った役割を与え、やりがいや達成感を持てるようにしている。年1回昇給制度もある。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員を育てる取組みとして、社内研修の他、外部機関の研修にも積極的に参加し、伝達研修をしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>エリア交流会へ参加し交流を図り、向上につなげている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前に面接を行い思いなどを細かく聞く様になっている。また、入居後も関わりを多く持ちゆっくり話を聞く様になっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前面接で、ご家族より細かく話を聞く様になっている。また、入居後も面会等を利用し細かく様子をお伝えしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人と家族よりしっかりお話を聞き、必要なサービスを見極め、他サービスとも連携し支援している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>教えて頂く事も多くあり、その時は「ありがとう」の感謝の気持ちでお礼を言い、うれしい事があった時は一緒に喜んだり、家族と思う心を持って接している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>一緒に支えていくという思いを持ち、面会時を利用ししっかりお話をするようにしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>墓参り、同窓会に同行し、馴染みの関係の継続をしている。</p>	<p>月1回のサロンに出向くことにより、馴染みの人と出会う場所となっている。希望者のみとなるが、同グループ全体で旅行委員会を中心に企画・立案した、1泊2日又は2泊3日の旅行を年1～2回行っている。なお昨年（平成25年）は、島根県の出雲大社へ出掛けた。外へ出掛けることで、利用者の表情が明るくなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	リビングの席は相性等を考え決めている。また、ソファは2ヶ所設置しており、関わりあいが出来るようにしている。		
		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、訪問したり関係を断ち切らないように、他サービスとも連携している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中で思いなどを聞く様にしている。また、1ヶ月に1回見直しの時にしっかり希望や、困っていることなどは聞く様にしている。	一人ひとりの思いを把握するように努め、困難な場合は、日々の関わりから、思いを汲み取り、利用者の意向を介護計画に反映するようにしている。誕生日は、本人にとって特別な日のため、本人に「何が食べたいのか」意向を確認して対応されている。なお、個人用の手作り”アルバム”を作成され、敬老会の日に、本人にプレゼントをしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にバックグラウンドを細かく聞き把握し、サービス提供している。また、入居後気付いたことは細かく記入するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	健康チェック、食事摂取状況、排泄表等で心身状態を把握している。また、アセスメントを細かく記入し個々にあったサービスにつなげるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>課題を明確にし、家族の要望を取り入れ、利用者様に合った介護計画を作成している。</p>	<p>日々の関わりや、言葉、行動などをアセスメント（状態把握）に丁寧に記録整備している。個々の利用者が生きがい、やりがいを感じながら生活し、本人の身体状況に合わせ、現状に即した介護計画を作成し、モニタリングを月1回実施している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録は細かく記入している。特記事項は日報にも記入し、毎日、目を通すようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>要望に応じて、他事業とも連携を図り支援するようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内会、中学生の職場体験、消防署の防火訓練等の協力を支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>週1回の協力医からの往診の他、診療科目によっては、入居前の係り付け医から引き続き、医療を受けている。</p>	<p>本人および家族と相談して、かかりつけ医を決めている。協力医の往診や法人全体で、複数の看護師が配属されており、相談や緊急時の連絡体制も整っている。病状については、個別記録の「医療記録」「検査記録」に記入され、日々の健康状況や受診状況、治療経過も丁寧に記録管理され、情報共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>単独の看護師の配置は無いが、法人全体では、複数の看護師がいるので、相談したり、情報を共有している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、交代で一日1回は必ず様子を見に行っている。面会時、看護師さんに様子を聞いたり、情報交換するようにしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>入居時にホームで重度化した時や、看取り実施時の指針を家族に説明し、同意を得ている。また、状況の変化とともに、入居者と家族、医師ホームとの話し合いを行い、意向の確認を行っている。</p>	<p>法人グループ全体で「看取り実施時の指針」に準じて対応している。そのため、入居前には、必ずホームで重度化した場合の対応方針について、話し合いをしている。状態変化に応じて、かかりつけ医との面談を重ねての対応方法とし、主治医に意見を聞き、家族と検討を行い対応方針を決めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>応急手当等、研修で学んでいる。マニュアルを作成し、いつでも確認出来る様にしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、訓練をしている。夜間は必ず1回マニュアルに目を通し確認し、テーブルの上に置いて慌てないようにしている。</p>	<p>年2回の訓練を実施している。夜間は特に人数が限られ、災害時には、近隣者が頼りになるため、法人全体で、近隣職員の応援体制を整備している。地域との連携については、町内会と一緒にバケツリレーなどで訓練を重ねている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様一人ひとりを人生の先輩として尊重し、声かけは明るく、優しい態度で接している。	電話対応についても、丁寧な対応に心掛けている。言葉掛けについては、友達感覚にならないように、相手の立場を考え、その人に合った言葉掛けとしている。日々の介護の言葉掛けも、自尊心を傷つけない言葉掛けとし、プライバシーに十分気をつけた対応をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ゆっくりとお話ができる機会を作っている。その時に思いや希望等をしっかり聞く様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様一人ひとりのペースに合わせて、声かけや行動をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の希望の美容院へ出かけている。外出行事等はお化粧をしたり一緒に服をお選びしおしゃれをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー作成時、食べたいものをお聞きし、取り入れるようにしている。盛り付けや配膳、下膳等一緒に行っている。	3食とも手作りである。週1回の体重測定の実施や個々の嚥下状態を把握し、利用者の状況に応じた食事提供をしている。メニューについては、季節食や利用者からの要望などを取り入れている。誕生日には、本人の好むものを取り入れ、食事が楽しめる工夫や雰囲気づくりをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>体型等に考慮し、茶碗の大きさを決めている。水分量は細かく記入し、日中は1000ccを目標に飲用して頂いている。1日のトータルを記入している。夜間は各居室にポットを置いている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、全員に口腔ケアをしている。自立の方は、声かけ、見守りを行っている。うがいが出来ない方には、ブラッシングを行い、ハミングットを使用し口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを理解し、一人ひとりに合った時間にトイレ誘導（声かけ）を行っている。夜間可能な方は定期的に声かけにてトイレ誘導を行っている。</p>	<p>自然排便を促す方法として、水分量の摂取、毎朝牛乳を飲んだり、適宜の体操、散歩を行っている。個々の排尿・排泄パターンに合わせたトイレ誘導や、夜間はベッド近くにポータブルトイレの設置を行い、なるべく紙おむつ使用は極力避けるようにしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘がちな方は、毎朝牛乳を飲んでもらっている。体操、散歩へ参加し運動を働きかけている。困難な方は医師と相談し、内服処方して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>毎日お風呂は沸かしている。最低週3日は入浴を促している。希望があれば、毎日入浴される方もいる。</p>	<p>毎日入浴される方もいる。本人の身体状況によるが、清潔保持が必要なため、最低週3回は入浴を行っている。入浴時には、皮膚のトラブルの確認や一人ひとりの状態を把握している。本人に満足していただくことを心掛け、ゆっくりと入浴ができるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調の変化時には、居室で休んで頂いたり、目が離せない方は、ソファにて対応したり、その時にあった支援をしている。安眠につながる様に日中散歩に出かけ、体を動かしてもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医療欄を作成しており、全員見られるようにしている。臨時薬が出た場合は、申し送りノートに注意事項、薬の名前を記入し全員が見てサインするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	料理が得意な方には、料理を一緒にしたり、買い物にスーパーへ出かけたりしている。ドライブに出かけたり、ショッピングにでかけたり、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域のサロンに出かけたり、希望があれば法事や食事会等に同行している。	外出することは、本人にとって気分転換にもつながるため、地元の夏祭りなどへ参加したり、月1回のサロンや近所の散歩に出掛けている。外食や泊まりを兼ねての旅行など外出を通じて地域の皆様との交流が図れるよう機会づくりに努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお金をお預りしている。買い物の時は本人に渡し自由に使用できるようにしている。自力で支払が可能な方は、して頂いている。出納は金銭出納帳を作成し記入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は子機を使用し、プライバシーに配慮し居室にて行っている。手紙、小包等は郵便受け簿へ記入し本人に手渡している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の壁画や作品等を飾っている。日中、日が当たる時は電気を消したり、レースカーテンを使用している。	換気や室温調整を行い、利用者の健康管理に努めている。月1回のサロンへ参加した時は、作品（コースターなど）づくりをされ、それらの作品を飾ることもある。季節感を取り入れるため、季節ごとの飾り付けをしている。利用者個々の居場所があり、一人ひとりが心休まり我が家のように生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを2ヶ所設置している。居室でテレビを見たり、本を読んだり一人の時間を保たれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	相談をしながら、居室作りをしている。タンスや仏壇等、使い慣れた物を置き、リラックスできるようにしている。	以前使用していた寝具や仏壇、家具など生活必需品を自由に持ち込まれている。本人が居心地よく生活していただくように、本人や家族と相談しながら工夫している。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	メニューはホワイトボードへ記入している。テーブルの席には名前を貼ったりトイレのドアには、「トイレ」と記入しわかりやすくしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい本浦

作成日 平成26年4月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間の緊急避難をスムーズに行う	1. 利用者の安全を守る	①夜間の災害に備えて避難訓練を実施(2~3回/年) ②実際に夜間、職員に招集をかける	1年
2			2. 町内会と災害協定の締結	①運営推進会議を通して町内会にお願いする。 ②消防署の方に会議に参加して頂き協力を得る	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。